



令和6年12月19日

鳥取市長 深澤 義彦 様  
鳥取市教育長 河井 登志夫 様

逢坂むらづくり協議会会長 原田 信章



逢坂小学校児童の教育環境の改善に関する要望  
～逢坂小学校の今後の在り方について～

平素から、学校教育や社会教育、まちづくり等にご尽力いただき深く感謝いたします。

#### 経 過

逢坂地区では、平成26年11月「逢坂の教育を考える会」を設立し、減少する児童数を鑑みた逢坂小学校のあり方について、校区審議室へ意見書を提出し、また平成29年8月には、「気高町内の小学校と新設統合すること」の要望書を提出しました。令和2年12月に、校区審議室からの提言「逢坂小学校の小規模化の状況は緊急な課題であり、前倒して浜村小学校に編入することも検討すること。」に対して、当時逢坂地区としては、「編入の検討は行わず、一刻も早い4校の新設統合することを切に希望します。」という要望を出した経過があります。

#### 現 状

令和6年度現在、逢坂小学校の児童数は16名となり、令和2年12月に要望した当時の予想児童数33名と比べても急激に減少しています。この現状を危惧するなかで、令和6年8月21日鳥取市教育委員会校区審議室と逢坂むらづくり協議会役員等と話し合いを持ち、またこれ以降、地域内での保護者（未就学児の保護者も含む）との意見交換やアンケートの実施、学校運営協議会やむらづくり協議会などで話し合いを重ねてきました。

#### 結 論

保護者には子どもの教育に対して、様々な意見や思いがある中で、開校まで6年～7年かかると言われる新設統合を待つのではなく、子どもたちの今後の教育環境を考えれば、「逢坂小学校児童が、浜村小学校へ早急に編入することを希望する。」という意見が多くあり、地域としても改めて浜村小学校へ編入することを要望する次第であります。

## 願 い

なお、編入する方向となっても、実際の編入まで時間がかかることが予想されます。「それまでは、合同学習を充実してほしい。」、「逢坂で培ってきた郷土愛の心を大切にしてほしい。」、「小規模校のなかで先生方や地域から大切にされてきた逢坂の子どもたちを、浜村小学校でもしっかりと受け止めて健やかに教育してほしい。」、「最長距離8キロとなる児童の安全な通学がどう確保されるか不安。」、などといった様々な思いが多岐に出されていることを申し添えておきます。

また、これまで地域で行ってきた話合いの経過、保護者（対象家庭数23）のアンケート結果や意見などもあわせて添付しておきます。